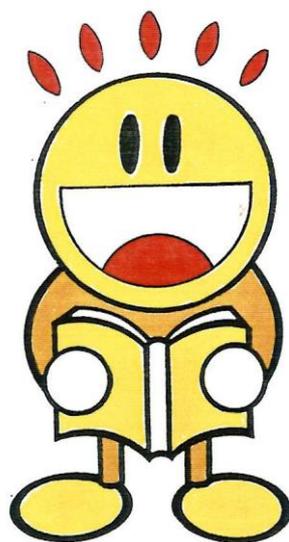


第3次 朝日町子ども読書活動推進計画



令和5年9月

朝日町教育委員会

目 次

- 第1章 「第3次 朝日町子ども読書活動推進計画」について・・・・・・・・・・ 1
 - 1. 策定の背景と趣旨
 - 2. 朝日町の現状
 - 3. 計画期間

- 第2章 前計画における主な成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 1. 家庭における読書活動の推進
 - 2. あさひライブラリーにおける読書活動の推進
 - 3. 幼保一体化施設あさひ園における読書活動の推進
 - 4. 朝日町立学校における読書活動の推進

- 第3章 「第3次 朝日町子ども読書活動推進計画」の基本方針・・・・・・・・ 16
 - 1. 家庭・地域・学校等が相互に連携・協力した取組の推進
 - 2. 子どもの読書活動推進に関わる人材の育成
 - 3. 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発
 - 4. 読書を楽しむ子どもが育つための環境の整備・充実
 - 5. 子どもの読書への関心を高める取組

- 第4章 子どもの読書活動推進のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - 1. 家庭における読書活動推進のための取組
 - 2. あさひライブラリーにおける読書活動推進のための取組
 - 3. 幼保一体化施設あさひ園における読書活動推進のための取組
 - 4. 朝日町立学校における読書活動推進のための取組
 - 5. 成果目標

- 第5章 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

第1章 「第3次 朝日町子ども読書活動推進計画」について

1. 策定の背景と趣旨

- 「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、「市町村は、当該市町村における子どもの読書活動の推進状況を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならない」とされています。
- 情報化の進展等により読書離れが懸念される中、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできない子どもの読書活動のための環境を、社会全体で積極的に整えていく必要があります。
- 朝日町では、家庭、図書館、学校等がそれぞれの役割を果たしながら連携し、子どもの読書活動のための取組を計画的に推進するよう本計画を策定します。

◆法律、関連計画等

- ・「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月 文部科学省）
- ・第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（令和5年3月 文部科学省）
- ・「第四次三重県子ども読書活動推進計画」（令和2年3月）

◆朝日町のこれまでの計画

- ・「朝日町子ども読書活動推進計画」（平成19年3月）
- ・「朝日町子ども読書活動推進計画（改訂）」（平成29年7月）

2. 朝日町の現状

(1) データから見る現状

①全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果から

質問事項：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらい

の時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（10分以上）

年度	R 4		
	朝日町	三重県	全国
小学校	59.7%	56.8%	59.6%
中学校	43.3%	44.1%	48.6%

質問事項：読書は好きですか。

年度	R 4		
	朝日町	三重県	全国
小学校	68.8%	72.5%	73.1%
中学校	68.6%	67.8%	68.2%

②図書館における子どもの利用登録者数（0歳～18歳）

年度	R 4	R 3	R 2	R 1
登録者数	1,630	1,760	1,854	2,155

③図書館における児童書の蔵書冊数

年度	R 4	R 3	R 2	R 1
冊数	21,871	22,047	21,509	20,903

④図書館における児童書の貸出冊数

年度	R 4	R 3	R 2	R 1
冊数	39,936	39,941	33,769	21,780

(2) 考察

①については、全国学力・学習状況調査のデータがすべてとは言えませんが、朝日町の小中学生の読書活動に関する一面を垣間見ることができます。

小学校、中学校とも普段読書をする子どもの割合は、全国や三重県の平均と同等かやや低く、子どもたちが本に接する機会が減っていることが伺えます。

「読書が好き」と回答する子どもは、中学生は全国平均とほぼ同等ですが、小学生は低い傾向にあります。

これらの原因としては、スマートフォンやゲーム機等の情報メディアの普及により、読書よりも簡単に様々な情報が入手できたり、興味関心を満たすことができたりする中で、読書の楽しさを見出せないことなどが考えられます。

図書館においては、②～④の状況を見ると、利用登録者数は減っているのに対し、児童書の貸出冊数は増加していることから、読書習慣のある子どもが繰り返し図書館に足を運んでいる状況が考えられます。

3. 計画期間

計画期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

第2章 前計画における主な成果と課題

本町では、平成29年7月に策定した第2次計画に基づき、家庭、保育園・幼稚園、学校、図書館と連携を図りながら子どもの読書活動を推進するための取組を進めてきました。

「朝日町子どもの読書活動推進計画（改訂）」では、

1. 読書を楽しむ子どもが育つための環境の整備・充実
2. 家庭・地域・学校等が相互に連携・協力した取組の推進
3. 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発
4. 子どもの読書活動推進に関わる人材の育成
5. 子どもと本をつなぐネットワークの整備

の5点を基本方針として挙げています。

第3次（本計画）では、既に改定が進められている国、県の動向に照らし、

1. 家庭における読書活動の推進
2. あさひライブラリーにおける読書活動の推進
3. 幼保一体化施設あさひ園における読書活動の推進
4. 朝日町立学校における読書活動の推進

の4観点において、「朝日町子どもの読書活動推進計画（改訂）」の基本方針に基づいた取組状況と成果についての評価を行います。

1 家庭における読書活動の推進

◆取組状況と成果

(1) 子どもが本に親しむきっかけづくり

子育て健康課とあさひライブラリーが連携し、7・8か月児相談の機会を利用して「ブックスタート事業」を実施しています。絵本を通して保護者が赤ちゃんと楽しい時間を過ごし、親子の絆を深めていくことを応援することを目的としています。「絵本を開く楽しい体験」として、7・8か月児相談時、待ち時間に読み聞かせボランティアが絵本の読み聞かせを行い、保護者に絵本の読み聞かせ方を知ってもらうとともに、親子に絵本を開く楽しみとゆったりした時間を過ごしてもらう機会としています。また、7・8か月児相談時に絵本の引き換え券を渡し、あさひライブラリーにて読み聞かせボランティアが選定した絵本を2冊プレゼントしています。この事業は乳幼児から図書館を利用するきっかけとして好評を得ています。

◆課題

ブックスタート事業の絵本配布については、本の引き換え率は令和4年度で85.4%となっており、家庭での活用、また絵本の受け取りのために図書館へ確実に来館することから、一定の成果が得られたと言えます。しかし、一定数取りに来ない保護者があることや、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年2月以降は読み聞かせ事業が実施できておらず、保護者へ読み聞かせの興味関心を引き出す機会が減っていることが課題です。保護者の読書への興味関心を高めつつ、家庭の中に読書活動をどのように取り入れていくかが今後の課題となっていく予定です。

今後も親子で共に読書に親しむことや、子どもの読書活動推進の必要性について、保護者の理解が広がるよう、継続した働きかけが必要です。

2. あさひライブラリーにおける読書活動の推進

◆取組状況と成果

(1) 職員の資質の向上及び職員体制の整備

三重県立図書館が主催する研修や各図書館が実施する地域研修会に参加し、職員の資質向上に努めています。新型コロナウイルス感染症対策が必要な期間においては、研修の実施は難しい状況にありましたが、代わりに各自治体の取組事例を参考にしたり、読み聞かせボランティア団体向けの勉強会に参加したりすることで、職員の資質向上が図られました。

また、子どもの読書相談・調べ学習に対応できる体制の整備として、夏休みには宿題をサポートするコーナーを設置し、学校へ本を貸し出す団体貸出を行いました。

(2) 子どもの本の充実

子どもたちの読書ニーズに応じた図書の充実を図るため、利用者からの本のリクエストへの対応に努めるとともに、汚損や劣化の著しい絵本の買替を行いました。

子どもの読書への興味・関心を高めるコーナーの充実を図るため、「ジャンル別えほんコーナー」、「はじめてのひとりよみコーナー」、紙芝居を置いている「おはなしコーナー」に加え、平成29年10月に新たに中高生向けの本を集めた「ティーンズコーナー」を設置しました。

また、調べ学習や総合的な学習に対応できるように学習シリーズの蔵書を増やしました。

(3) ブックリストの作成

幼児向けのはじめて出会う絵本のリストとして「親子で絵本をもっと楽しもう！」(絵本の選び方や読み方、年齢別の絵本のリストをまとめたもの)を作成し、配布しています。

また、各年代別の本の案内リストとして「楽んちょ」（赤ちゃんから小学校高学年までを対象に、テーマ毎に本を5冊セットにしたもの）を作成し、貸出を行っています。いずれも、来館者が手に取れるように入口付近に置いており、本を購入したり借りたりする時の参考にしてもらい、お気に入りの本に出会える手助けをしています。

(4) 子育て支援団体・地域住民との連携

読み聞かせボランティアの方々と連携して、親子で参加できるストーリーテリングや乳幼児向けおはなし会を開催しました。

また、子どもの読書活動が推進されるよう、絵本作家による絵本の読み聞かせやワークショップを行いました。

(5) すべての子どもたちが利用しやすい環境づくり

視覚や心身に障がいのある子どもに対応できるよう、三重県視覚障害者支援センターへあさひライブラリーとして登録を行い、点字図書・録音図書の貸出を利用できる体制を整えました。

また、在住外国人の子どもやその保護者に対応できるよう、筆談ボードと指差しシート（英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語）をカウンターに設置しました。

(6) 子どもの読書活動を広げる各種行事、講座の開催

「子ども読書週間」や「読書週間」に合わせて、その年の標語に関する本を集めて展示を行ったり、関連イベントを行ったりしました。また、子どもの本や読書に関心のある人向け

に大人のための朗読会を開催しました。

また、毎月第2・第4水曜日は赤ちゃんと一緒に図書館を楽しめる時間を設け、子育てに関する図書の展示を行っています。

(7) 関係機関等との連携及び支援

学校や放課後児童クラブへの図書の貸出を定期的に行うことで読書支援を行いました。

(8) 啓発広報の推進

図書館だよりを発行し、朝日町ホームページ及び朝日町教育文化施設ホームページにイベント情報や特集コーナーの情報を掲載しました。また、イベントを企画した際は、近隣図書館や近隣児童館へ広報の依頼をしています。

◆課題

本町において、読書活動を広げ、幅広い世代へ読書に関心を持ってもらうためには、図書館未利用者への広報は今後の大きな課題です。特に子どもが読書についての関心を深めるとともに図書館の利用促進を図るためには、子育て世代に図書館の事を知ってもらう必要があります。

また、地域住民との連携として活動している読み聞かせボランティアのスタッフは、高齢化が進み、スタッフ数が減少していますが、新メンバーが容易に確保できない状況があります。読み聞かせボランティアの活動を多くの人に知ってもらえるように支援することが大切です。

3. 幼保一体化施設あさひ園における読書活動の推進

◆取組状況と成果

(1) 子どもの本の充実

あさひライブラリーで行われているイベントの案内を配布するとともに、年に一度、絵本の見直しと購入を行うことで子どもの本の充実を図りました。

(2) 子どもが本と親しむ機会の充実

日頃の保育活動の中で、園児に対し絵本や紙芝居の読み聞かせなどを行うことで、子どもに読書の楽しさとふれあいの場を提供できました。また、園児に対し、隔週で絵本の貸し出しを行い、保護者と共に絵本に親しむ機会を作っています。

保育士・幼稚園教諭には絵本や読み聞かせについての講習会の案内を行い、資質向上に努めています。

(3) 啓発

園だよりにより、子どもの読書活動の大切さについて啓発に努めました。

◆課題

園内においては読書活動を実施していますが、図書館で行われているイベント等にどれだけ参加しているのか、どのくらい家庭で絵本に親しんでいるか等、園での読書活動が家庭で継続されているか否かについては把握できていないのが現状です。

また、子どもたちが園生活の中でより本に親しむために、保育室にある絵本を季節や年齢

に合わせて配置を変えていくなど、園内の読書環境を定期的に見直すとともに、今後、地域の方との交流の場を設けていく中に読書活動を取り入れることも視野に入れて、園内での読書活動を推進していく必要があります。

4. 朝日町立学校における読書活動の推進

◆取組状況と成果

(1) 読書の時間の充実

朝日小学校及び朝日中学校では授業や全校一斉の読書活動等における読書活動の推進を図っています。

朝日小学校では、低学年で週1回、中学年で月2回、高学年で月1回程度は、学校図書館を利用するように時間割に組み入れたり、図書館まつり、図書委員会や教師による読み聞かせをしたりするなど、多様な企画で読書活動の推進・充実に努めています。令和4年度に実施した学校づくりアンケートの『進んで読書に取り組むことができた』についての項目での満足度は、児童では73.4%、保護者では90%で昨年度よりも上がりました。また、学力調査の一つである、CRTの質問紙において、「本を読むことが楽しいですか」の質問に国語科の成績上位は80%、下位は30%が、肯定の回答になっており、国語科の成績上位者と下位者の相関が見られました。また、貸出し冊数を比較しても国語科の成績の上位者と下位者には、同様に約2倍の開きがあり、読書習慣づくりが学力向上につながるということが推察できる結果になりました。

朝日中学校においては、外国籍の生徒が取り出し（授業時間内で別カリキュラムを別室において実施すること）で学校図書館に来た時に読み聞かせを行い、読書時間の充実に努めました。

(2) 人的環境の整備

学校に専門的知識を持つ学校司書を配置し、魅力ある学校図書館づくりに努めています。

学校司書や教員へは研修への個人参加を促すことで資質向上に努めています。

朝日小学校は、学校司書による授業支援を各クラス年間1回1時間実施しています。

すべての学年で、様々な教科や単元で図書に関連付けた授業を実施します。多くの児童が、専門的な話に大変興味深く、関心を持って聞き入っています。毎年、この授業をきっかけに、普段学校図書館に足を運ぶ回数が少ない児童が、おすすめの本や季節の変わり目に読むと面白い図鑑のような本があるかについて、学校司書に聞くために学校図書館に行くようになる姿が見られます。

(3) 学校図書館資料のさらなる充実

校内での図書館資料の活用の工夫や、学校司書以外の教員の意見を取り入れることにより、学校図書館の整備や、多様なジャンル、また視聴覚教材としての蔵書の充実を図っています。

例えば、朝日小学校の年間貸出冊数は、令和3年度18,791冊から、令和4年度20,550冊と増加しました。増加の理由として、教室の前においてある学級文庫も学校図書館の蔵書として貸出可能としたため、手軽に借りることができるようになったことが挙げられます。また、社会見学や修学旅行前などの調べ学習ができるように、資料になる図書を学年にまとめて貸し出し、活用しました。

朝日中学校においては、令和4年度は教員の意見を取り入れ、SDGsに関する本を集めました。時事にあった図書を各クラスで読んでもらうことができました。

(4) 学校図書館の整備

朝日町立学校内の学校図書館では、季節に応じた掲示物で、児童生徒の興味を引くように

雰囲気づくりが常になされています。毎月「司書カレンダー」を作成し、学校司書のいる日を周知するとともに、おすすめの本の紹介コーナーを学校図書館に設置しています。また、掃除も行き届いていて清潔で、温かい感じのする空間が広がっており、休み時間に本を読みに行く児童生徒も多く見られています。本の並べ方もいつも整っており、心穏やかに本を読みたくなるような学校図書館になっています。

(5) 学校図書館とあさひライブラリーの連携

朝日小学校においては、コロナ渦以前はあさひライブラリーと連携を取り、職員によるブックトーク、施設の見学の他、ボランティアによりストーリーテリング（語り聞かせ）を行って児童の読書の幅を広げる取組をしてきました。新型コロナウイルス感染症対策が必要な期間においては、いずれの取組も中止せざるを得ませんでした。令和4年7月以降にストーリーテリングを再開しており児童には好評です。

朝日中学校においては、長期休業中の課題として出される読書感想文に必要な課題図書を、あさひライブラリーにて展示しており、より学習に即した形での連携を行っています。

(6) 啓発

各校において、「子ども読書の日」（4月23日）、「子ども読書週間」（4月23日から5月12日）や「読書週間」（10月27日から11月9日）等の時期に、「図書館まつり」を行ったり、ポスター等を掲示したりして啓発活動を実施しています。

朝日小学校で令和4年度に実施した図書館まつりでは、前期と後期の図書館まつりで読書

の取組を木の成長に見立てた掲示とし、児童自身が用紙やシールで成長させることで、楽しみながら本に興味を持つように啓発活動を行いました。

◆課題

朝日町立学校における蔵書数については、学校図書館標準を満たしてはいるものの、学校図書館が狭く、その全てが学校図書館内に配架できないのが実情です。

学校司書が積極的に授業提案を行えるように、学校司書とその他教員との理解と協力により、年間を通じた計画的な調整を行い、学校図書館での授業機会を増やすとともに、学校司書が本の場所を教えるなど、児童生徒との関わりが増えることが望ましいと考えます。

また、朝日町立学校では平成 30 年度から授業にタブレット端末を導入しています。タブレット端末の導入や情報化が進んだことにより、紙媒体の資料よりも、インターネットを使った視聴覚教材の利用が増えることが予想されることから、調べ学習での本に接する機会が減るのではないかという危惧があります。タブレット端末と図書館資料とのバランスの取れた活用や、学校図書館に図書館資料がない場合に、あさひライブラリーの図書を活用することで教科学習の支援につなげるなど、本に親しむ活動を意識的に増やしていくことが大きな課題です。

学校内では掲示などの情報発信の工夫や、年間を通じた読書啓発活動の継続により、学校図書館に足を運ぶ児童生徒を増やしていくことが大切です。

第3章 「第3次 朝日町子ども読書活動推進計画」の基本方針

朝日町子ども読書活動推進計画(改訂)における課題を踏まえつつ、朝日町の子どもたちが、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭、図書館、学校等がそれぞれの役割を果たしながら、連携して子どもの発達段階に応じた豊かな読書活動を推進することを目指します。

<基本方針>

1. 家庭・地域・学校等が相互に連携・協力した取組の推進

司書・教員(学校司書含む)・保育士・ボランティア等、関係者が連携・協力し、図書資料の共有や子どもの読書活動を推進します。

2. 子どもの読書活動推進に関わる人材の育成

読書バリアフリー法やICT環境の変化を踏まえ、司書等の研修に取り組み、子どもの読書活動関係者の資質向上を図ります。

3. 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発

「子ども読書の日」(4月23日)、「子ども読書週間」(4月23日から5月12日)、「読書週間」(10月27日から11月9日)等の普及・促進を行います。

4. 読書を楽しむ子どもが育つための環境の整備・充実

関係機関が連携して、子どもたちそれぞれの興味・関心を的確に捉えた本と出会える機会

の提供を行い、子どもの発達段階に応じた読書環境の整備・充実を図ります。

5. 子どもの読書への関心を高める取組

子どもが主体となって実施する活動を推進するとともに、デジタル社会に対応した取組の促進や、すべての子どもが参加しやすい取組を検討・実施します。

第4章 子どもの読書活動推進のための取組

本計画を推進するにあたり、家庭はもとより地域の人々、子どもに関わるすべての機関が連携・協働して総合的に取組を進めていくことが重要です。

1. 家庭における読書活動推進のための取組

(1) ブックスタート事業

0歳からの読書習慣の形成を促すため、絵本を手渡し、読み聞かせ体験を行うブックスタート事業を継続して実施します。

2. あさひライブラリーにおける読書活動推進のための取組

(1) 職員の資質の向上及び職員体制の整備

専門機関が行っている研修への参加や、各自治体の調査研究を参考にしながら、子どもの読書サービスに関する職員の資質向上を図ります。

(2) 子どもの本の充実

① 子どもの興味関心のある幅広い分野に対応できるよう、図書環境の整備に努めると

ともに、テーマを設け、子どもの興味・関心にこたえる図書を紹介します。

② 調べ学習や総合的な学習に対応できる参考資料の充実を図ります。

地域に身近な郷土資料を、子ども目線で探しやすくする工夫を行います。

(3) ブックリストの作成

- ① ティーンズコーナーの本のリストを作成します。
- ② 現在、小学校高学年までの各年代別の本の案内リスト「楽んちょ」について、中高生向けのセットを作成します。

(4) 子育て支援団体・地域住民との連携

- ① 地域の読み聞かせボランティアと連携した親子で参加できるイベントの開催や、読み聞かせボランティアが図書館以外で活動する際に広報を依頼するなどにより、子どもの読書活動の周知・啓発を図ります。
- ② ボランティアの活動にあたり、読み聞かせボランティアの広報に努め、活動を幅広い世代に知ってもらえるよう支援します。

(5) すべての子どもたちが利用しやすい環境づくり

- ① 視覚や心身に障がいのある子どもに対し、資料、施設面での配慮を行い、利用しやすい環境づくりを行います。
- ② 在住外国人の子どもや保護者が利用しやすい環境をつくるため、外国語による利用案内の作成を検討するとともに、外国語資料の整備を行います。

(6) 子どもの読書活動を広げる各種行事、講座の開催

- ① 図書館未利用者の利用促進に繋がる、気軽に本に親しめるような事業を実施します。
- ② デジタル社会に即したオンラインでの読み聞かせや朗読会の実施を検討します。

(7) 関係機関等との連携及び支援

- ① 学校や放課後児童クラブへの図書貸し出しを行います。
- ② 職員や読書ボランティアが学校等に出向き、ブックトークやストーリーテリングを実施します。

(8) 啓発広報の推進

- ① 広報啓発にあたっては、図書館だよりやホームページの他、新たな情報手段の活用により、町内及び近隣市町への広報を行うことを検討します。

3. 幼保一体化施設あさひ園における読書活動推進のための取組

(1) 子どもの本の充実

子どもたちの年齢にあわせた図書の充実を図ります。

(2) 子どもが本と親しむ機会の充実

①職員の資質向上

絵本や読み聞かせについての講習会等に積極的に参加します。

②本のある環境づくり

子どもたちが自ら本を手に取り、読もうとする意欲がでるような工夫（年齢や季節に合う本を用意したコーナーづくりや、展示の工夫）をすることにより、本のある環境づくりを行います。

(3) 啓発

保護者へ読書に関する情報を提供し、子どもの読書活動の大切さを啓発します。

4. 朝日町立学校における読書活動推進のための取組

(1) 読書の時間の充実

「朝読」をはじめとする読書時間の拡大や、調べ学習などでタブレット端末活用とのバランスを取りつつ図書館資料を積極的に活用することにより、本に接する機会を確保します。

また、地域ボランティアによる学校での読みきかせや、学校図書館での授業、学校司書による授業を計画的に取り入れたりすることで、学校での読書活動の充実を図ります。

(2) 人的環境の整備

学校司書が、学校図書館運営のための専門的知識を向上できるように、研修への参加を進めるとともに、学校司書が積極的な授業提案をできるように読書活動への教員の理解を深め、協力体制を構築します。

(3) 学校図書館資料のさらなる充実

学校図書館の活用において、今まで以上に図書教育を豊かなものにしていくために、児童生徒数に見合った蔵書数を維持するとともに、定期的な新刊購入により、子どもたちの多様な興味・関心に応じた魅力的な本を増やします。

(4) 学校図書館施設の整備

自由に読書を楽しみ、くつろげる空間を創出し、暖かい雰囲気づくりを心がけるとともに、子どもたちが本を手に取りやすい配架の仕方や、掲示物の工夫、細かな配慮が行き届いた学校図書館づくりを行います。

(5) あさひライブラリーとの連携

あさひライブラリーと連携し、貸出図書の教科学習への活用のほか、読み聞かせボランティアによるストーリーテリング、職員によるブックトーク、施設の見学などの活動を取り入れ、学校生活でより図書への興味関心が広がるよう取り組みます。

(6) 啓発

「子ども読書の日」(4月23日)、「子ども読書週間」(4月23日から5月12日)や「読書週間」(10月27日から11月9日)等の機会を利用しつつ、年間を通した読書の啓発活動を行います。

5 成果指標

本計画に定めた取組により、子どもの読書活動が効果的に推進されていることを客観的に把握するため、数値化できる取組について成果指標を設定します。

【各取組目標】

	項目	現状 (R4)	目標 (令和9年度末)	所管課
1	ブックスタート事業における絵本の受取率	85.4%	90.0%	子育て健康課
2	あさひライブラリーにおける子どもの利用登録者数（0歳～18歳）	1,630人	2,000人	文化課
3	あさひライブラリーにおける児童書の蔵書冊数	21,871冊	22,000冊	文化課
4	あさひライブラリーにおける児童書の貸出冊数 ※団体貸出冊数除く	39,936冊	41,000冊	文化課
5	あさひライブラリーにおける児童書の団体貸出冊数	2,662冊	3,000冊	文化課
6	学校の授業時間以外に、平日10分以上読書する子どもの割合【全国学調】	小学生 59.7% 中学生 43.3%	小学生 65.0% 中学生 65.0%	教育課
7	読書が好きな児童生徒の割合【全国学調】	小学生 68.8% 中学生 68.6%	小学生 70.0% 中学生 70.0%	教育課
8	学校図書館標準の達成状況	小学生 100% 中学生 108%	小学生 100% 中学生 100%	教育課
9	学校と公共図書館との連携状況	小学校 1 中学校 0	小学校 1 中学校 1	教育課

第6章 推進体制

本計画の進行管理は、朝日町教育委員会が行います。

各所管課は、各事業の取組状況を検証し、更なる推進と必要な改善について教育委員会と協議決定します。

第3次 朝日町子ども読書活動推進計画

令和5年9月

【沿革】 朝日町子ども読書活動推進計画 平成19年3月策定
朝日町子ども読書活動推進計画（改訂）平成27年7月策定

【発行】 朝日町教育委員会
〒510-8102 三重県三重郡朝日町大字小向893番地